



こだち News



目次

田嶋誠一先生 特別講演会のご報告	2
お知らせと ご案内	3
掲示板	4

巻頭言

現場のリアリティを生きる心理臨床を

九州大学 名誉教授
NPO法人 九州大学こころとそだちの相談室
顧問 田嶋 誠一

「刺すぞ」では警察は動けません。刺されてからでないと」とその警察官は言い放った。私が学生相談に従事していた時のことである。以前付き合っていた彼氏につきまとわれて困っているという女子大生からの相談があった。「別れるなら刺し殺す」などと暴力的言動を繰り返してつきまとう、ずいぶん怖い思いをしているとのことであった。そこで、私は警察に相談した。冒頭の発言はその時に言われたことである。実際にはもっと丁寧な言い方であったかもしれないが、要するに「警察は事件が起こってからでないと動けない」ということであった。「でも、刺すぞと言われてるんですよ」となお私は食い下がった。「そりゃあ男と女が別れる時には、乱暴なセリフの2つや3つは言いますよ」と返された。当時は、「民事不介入」である。警察には「刺されたら連絡を」ということであった。

現在は「ストーカー規制法」ができたのでまさかそんなことはないだろうが、「ストーカー」という語もなかった当時はそんな状況であった。

この話を読者はどう思われるだろうか。臨床心理士対象の研修会などでこの話をする、たいていは笑いが起こる。

だが、私たちは本当にこの話を笑えるのだろうか。「コトが終わってからの心のケア」であるならまだしも、実際には「コトが終わっていないかもしれない」「現在進行中かもしれない」場合にも、もっぱら「コトが終わってからの心のケア」と全く同じ姿勢で関わっていないだろうか。

むろん、犯罪被害者のケアや震災後のケアのように「コトが終わってからの心のケア」は臨床心理士の大変重要な仕事であることは間違いない。しかし、別種の相談でも、いつもそうであっていいのだろうか。たとえば、深刻ないじめ・暴力ではどうだろう。心理的にはともかく、現実にはすでに終わった後の犯罪被害や災害のケアとは異なり、学校や児童養護施設等でのいじめ・暴力・性暴力は繰り返されることが多い。これからは繰り返し被害にあう可能性が高いという意味で、「まだ終わっていない（かもしれない）」あるいは現在進行中と考えた方がよい。また、現在大きな注目を浴びている発達障害の子たちにしても、学校や施設でその多くはいじめられている。それもまた現在進行中であることが多いものと考えられる。そういういじめや暴力・性暴力被害も「心のケアだけでよいという姿勢」あるいは「それが、終わってから来て下さい。心のケアをしますからという姿勢」でよいのであろうか。

大学院在学中でのトレーニングでは、薄氷を踏むようなリスクのある臨床に従事することはほとんどないと言ってよいだろう。学生として訓練生としてかなり護られているのである。しかし現場に出てからは、自分たちの都合のよいような形に切り取った心理臨床になっていないだろうか、「現場のリアリティを生きる心理臨床」になっているか、ときどきでもそういうことを自問して欲しいものである。

こういうことを書きながら、私自身は「年をとって、えらそうなもの言いになっていないか」と自問するこの頃である。

平成30年度の事務局

事務局の体制は以下の通りです。

理事長：

黒木俊秀

顧問：

田嶋誠一

野島一彦

専務理事：

金子周平

心理臨床部長：

阪木淳子

事務局長：

梅野 彰

事務局員：

諫山千絵

金子光代

栗田彩加

齊藤友佳子

田原知子

準事務局員：

堀江和正

(五十音順)

どうぞよろしく

お願いいたします。



第12回定時総会特別企画

「田嶋誠一先生 特別講演会」のご報告

2018年6月10日、九州大学西新プラザ大会議室において、田嶋誠一先生（当法人顧問・九州大学名誉教授）をお招きして特別講演会を開催致しました。テーマは【現実介入しつつ心に関わる心理臨床—「体験の支援」という視点から—】でした。

田嶋先生が臨床活動で培われた知見について、事例を交えながらお話しくださいました。当日の様様をご報告いたします。

特別講演会では、体験支援的アプローチについて「内面探求型アプローチ」「ネットワーク活用型アプローチ」「システム形成型アプローチ」の視点からお話がありました。複数の関係者による支援を行うこと、子どもの「困り感」を引き出すことの大切さをお話いただきました。不登校の子どもの支援においては、逃げ場を作りつつ関わり続ける“節度ある押しつけがましき”と、自助のための注文と工夫を引き出すことが重要であるとのことでした。

また、田嶋先生が九大で取り組まれていた、居場所づくりの活動についてのお話もお聞きすることができました。「どんな心理療法も無条件に効果があるわけではない」というお言葉から、現実介入することについて、それぞれ考えを深めることができたのではないのでしょうか。

体験支援的アプローチのキーワードとして、「体験の蓄積」「体験の整理」「体験の活用」の3つが挙げられました。大人であればこれまでの体験を整

理するだけでよい場合もあるが、子どもの場合は体験が足りないことから「体験の蓄積」が重要ということでした。

最後に、田嶋先生の好きなお言葉をご紹介していただきました。「小さきは小さきままに 折れたるは折れたるままに コスモスの花咲く」という、しのみ学園・昇地三郎先生のお言葉です。傷ついたり育ちににくかったりしながらも、花を咲かせようとしている人を支援するのが私たちの仕事であるというメッセージは、皆様の励みとなったのではないのでしょうか。

参加者の皆様からは、「実践的なお話が多く勉強になった」「安心安全のための基盤となる組織の重要性を理解することができた」「型にはまるのではなく状況にあわせた方法を見つけていくことが大切だと学べた」等の声が寄せられ、満足度の高さがうかがえました。



当法人設立12周年記念

「杉原 保史 先生 公開スーパービジョン」

日 時：2019年2月3日（日）14:00～16:30

会 場：九州大学西新プラザ 大会議室（福岡市早良区西新2-16-23）

講 師：杉原 保史先生（京都大学 教授）

対 象：臨床心理士（受験資格者を含む）、公認心理師受験者、
医師、コメディカルスタッフ、臨床心理学を学ぶ大学院生

定 員：200名

参加費：会員 3,000円 非会員 4,000円

申込み：右のQRコードか当法人HPよりWeb申込フォームに必要事項をご記入の上、
自動返信メール記載の期日までに受講料をお支払いください。



お知らせとご案内

福岡市NPO活動推進補助金が交付されました

平成30年度福岡市NPO活動推進補助金は、福岡市NPO活動支援基金に寄せられた寄付金を活用して、福岡市で活動するNPO法人の活動への補助を行うものです。

今年度、こだちでは家庭学習支援事業の質のさらなる向上ならびに家庭学習支援員の人材育成を目的に補助金を申請し、8月に交付されました。

交付金は家庭学習支援員登録者が参加する各種研修への受講料助成等に活用し、支援員の専門知識・臨床能力の向上を目指します。ひいてはその先の利用者の方々によりよい支援をお届けできるよう、

引き続き家庭学習支援事業の充実を目指して参ります。

会員ならびにご関係の皆様におかれましては、引き続き当事業へのご理解・ご支援を賜りますようお願い致します。



家庭学習支援事業のご案内

上記補助金の対象ともなりました「家庭学習支援事業」は、ご家庭に支援員(心理学を学ぶ学部、大学院生)を派遣し、ご自宅での学習サポートを行う事業です。お子さまへの「学習」と「こころ」の両面からの支援を行います。

当事業は、①家庭学習支援員の派遣 ②保護者の方へのカウンセリング ③家庭学習支援員の資質向上(相談員との連携、支援員同士のシェアリング等)の3つをセットとして展開しています。

ーご利用についてー

<日時>

1回2時間、ご都合の良い曜日・時間帯
(家庭学習支援員との事前調整が必要)

<利用料金>

年会費 5,000円

1回2時間 6,000円＋交通費(実費)

別途、カウンセリングルーム「こだち」における相談料金(初回相談・継続相談)をいただきます

～お問い合わせ・お申込みはこだちまで～

研修会のご案内

読みとる、活かす WISC・WAIS研修会

昨年大好評だったウェクスラー式検査の研修会を今年度も開催します。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2018年12月9日(日)12:00～17:00

会場：九州大学西新プラザ 大会議室

講師：木谷 秀勝先生(山口大学教育学部 教授)

対象：臨床心理士、公認心理師受験者、教師、児童発達支援や障がい者支援関係者およびこれらの領域を学ぶ学生

定員：50名

参加費：会員 8,000円

非会員 10,000円

申込み：右のQRコードよりWeb申込フォームに必要事項をご記入の上、自動返信メール記載の期日までに受講料をお支払いください。



事例で学ぶテストバッテリー

例年参加者の満足度が高い研修会です。8月5日に第1回目を終え大変好評でした。下記の第2回目のみの受講も可能です。お早めにお申し込みください。

日時：2019年1月27日(日)10:00～17:00

会場：九州大学西新プラザ 中会議室

講師：高橋 靖恵先生(京都大学大学院教育学研究科教育学専攻臨床心理学講座 教授)

対象：臨床心理士、または現職の心理職

定員：30名

参加費：会員 8,000円

非会員 10,000円

申込み：右のQRコードよりWeb申込フォームに必要事項をご記入の上、自動返信メール記載の期日までに受講料をお支払いください。



掲 示 板

こだちよりお知らせ

◆カウンセリングルーム「こだち」の 面接料金が改定になります

当法人の「心理臨床サービス事業」の主軸である「カウンセリングルーム『こだち』」は、この度2018年10月よりカウンセリング料金を下記の通り改定することとなりました。

皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

初回面接(90分)：6000円

2回目以降

個人面接(50分)：5000円

並行・合同面接*(50分)：6000円

(*保護者の方とお子さまなど)

ご不明点はお電話(092-832-1345)にて
お気軽にお問い合わせください。

◆九州大学総合臨床心理センター 伊都キャンパス移転のお知らせ

当法人とも連携している九州大学総合臨床心理センターが、この度、伊都キャンパス・イーストゾーン内へ移転いたしました。

＜移転先＞

〒819-0395 福岡市西区元岡744番地
九州大学伊都キャンパス（イーストゾーン）

＜新センター業務再開日＞

2018年10月1日（月）

*詳しくは九州大学総合臨床心理センターの
ホームページをご参照ください。

<http://www.hes.kyushu-u.ac.jp/~cpcenter/center/>

○入会のご案内

こだちは今年で12年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。NPO法人の会員となって私たちの活動を支援いただけると幸いです。会員になっていただける方はぜひこだちまでご連絡ください。なお、会費は1年毎の更新制です。よろしくお願いいたします。

会員（ひと口5,000円）：臨床心理士・公認心理師（予定）

・医師その他対人援助に関わる方（定款参照）

学生会員（ひと口1,000円）：学部生・大学院修士課程

賛助会員（個人：5,000円・団体：ひと口10,000円）

○ご支援のお願い

当NPO法人では会員以外の方からも、ご寄付をおまちしております。関心や興味をもたれた方はぜひご連絡ください。

交通のご案内



地下鉄でお越しの方

福岡市営地下鉄空港線西新駅下車後
7番出口より徒歩にて約10分



特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002

福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟

TEL 092-832-1345 FAX 092-832-1346

HP <https://www.codachi.org>

